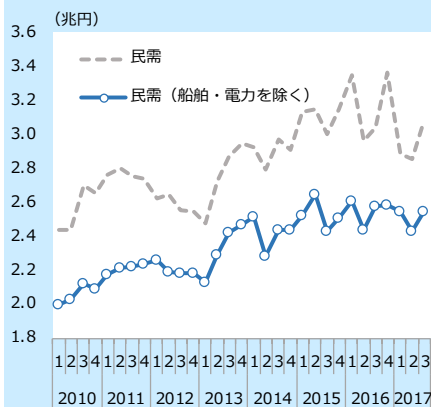


日本：機械受注統計（2017年7-9月）

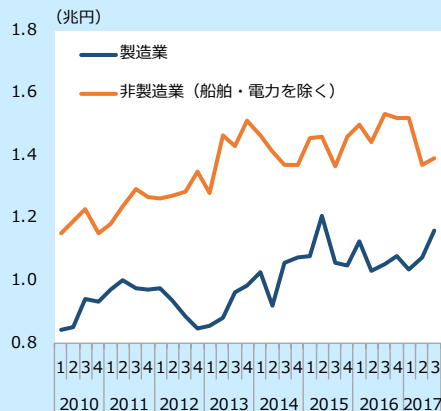
—現状は横這いも今後緩やかに持ち直す見込み—

MRI Daily Economic Points
November 9, 2017

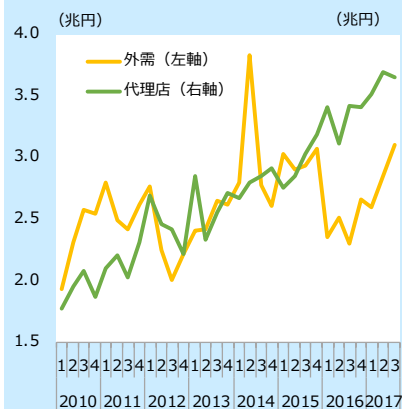
図表 機械受注額



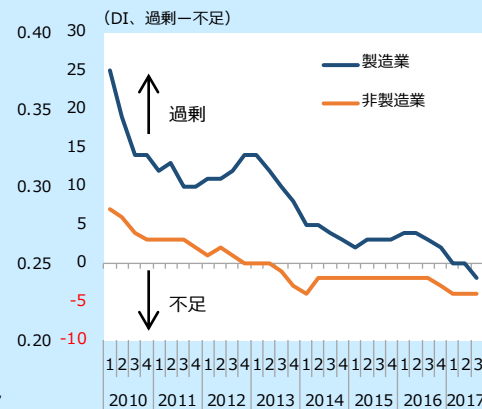
図表 業種別の機械受注額



図表 外需と代理店の機械受注額



図表 設備判断DI



評価ポイント

17年7-9月の結果および17年10-12月の見通し

- 民間設備投資の先行指標である機械受注の民間（船舶・電力を除く）は、17年7-9月において季調済前期比+4.7%と増加したが、均してみると横這い圏内で推移している。
- 製造業は、同+8.2%と2四半期連続の増加となった。16年以降横這い圏内での推移が続いていたが、やや持ち直している。業種別にみると、自動車・同付属品製造業等で持ち直しの動きがみられ、米国向け自動車輸出の好調等が背景にあると考えられる。
- 非製造業（船舶・電力を除く）は、同+1.6%と4-6月期の同▲9.9%から持ち直した。通信業や卸売業・小売業が低下したが、運輸業・郵便業、リース業などで回復の動きがみられる。
- 外需が同+9.2%と増加し、16年半ば以降でも回復傾向にある。世界経済の堅調な推移を背景に、受注が持ち直している。また、中小企業からの受注とみられる代理店経由の受注については同▲1.0%とやや減少したが、長期的には増加傾向を維持している。
- 17年10-12月の機械受注見通しは、民間（船舶・電力を除く）が季調済前期比▲3.5%と低下する見通し。非製造業（船舶・電力を除く）は同+0.9%と回復を持続するものの、製造業が2四半期連続で増加した反動もあり同▲9.4%と大幅に落ち込む見込み。

基調判断と今後の流れ

- 機械受注は横這いで推移している。
- 先行きの機械受注は、緩やかながら持ち直していく見込み。製造業の設備稼働率が高水準を維持する中、企業の設備不足感も強まっており、製造業の設備判断DIは06年以來の不足超過となっている。企業の設備投資スタンスも前向きになっており、省力化・自動化等を目的とする設備投資とそれに伴う機械受注の持ち直しが見込まれる。